

北書の決

時代

種

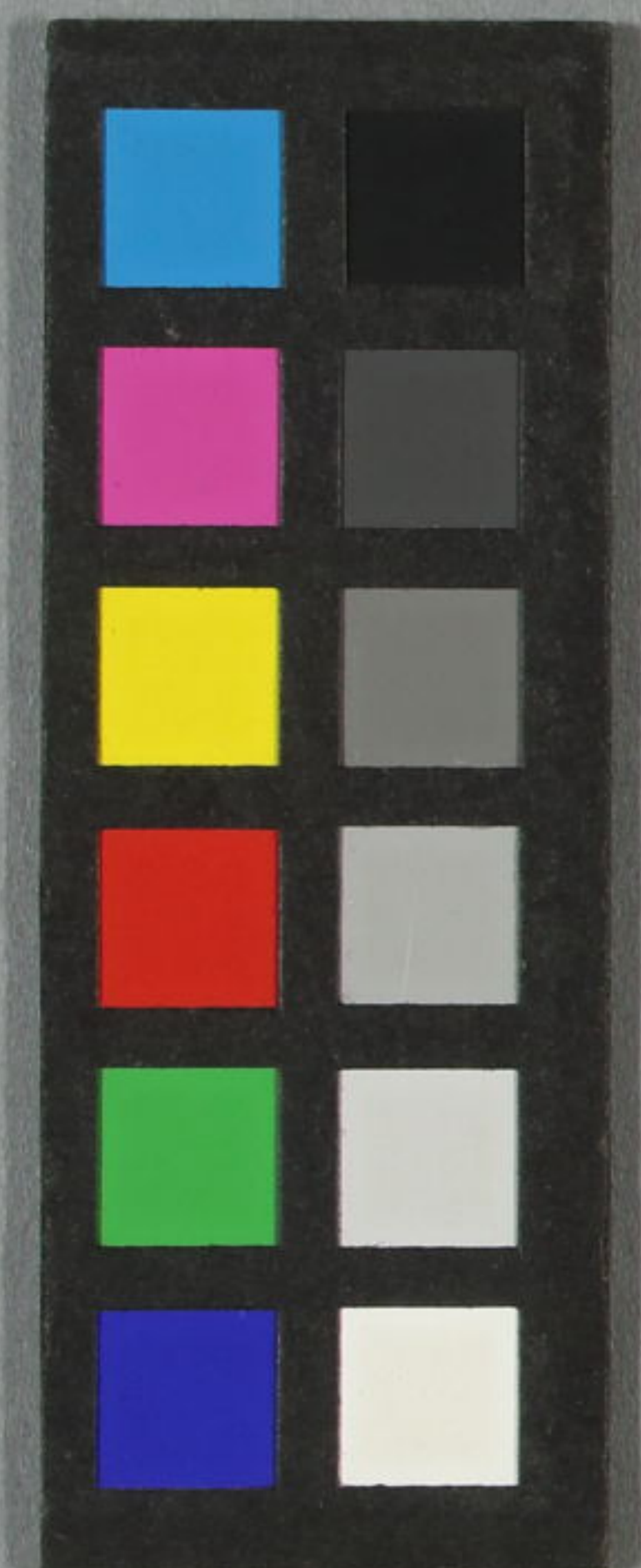
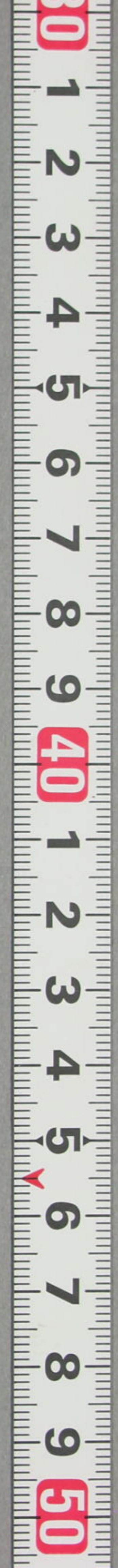
國

年

号



13  
3756  
19





四十五編上

外題吟光出



門 へ 13  
號 3756  
卷 19

北書の法

時代

いゝ見

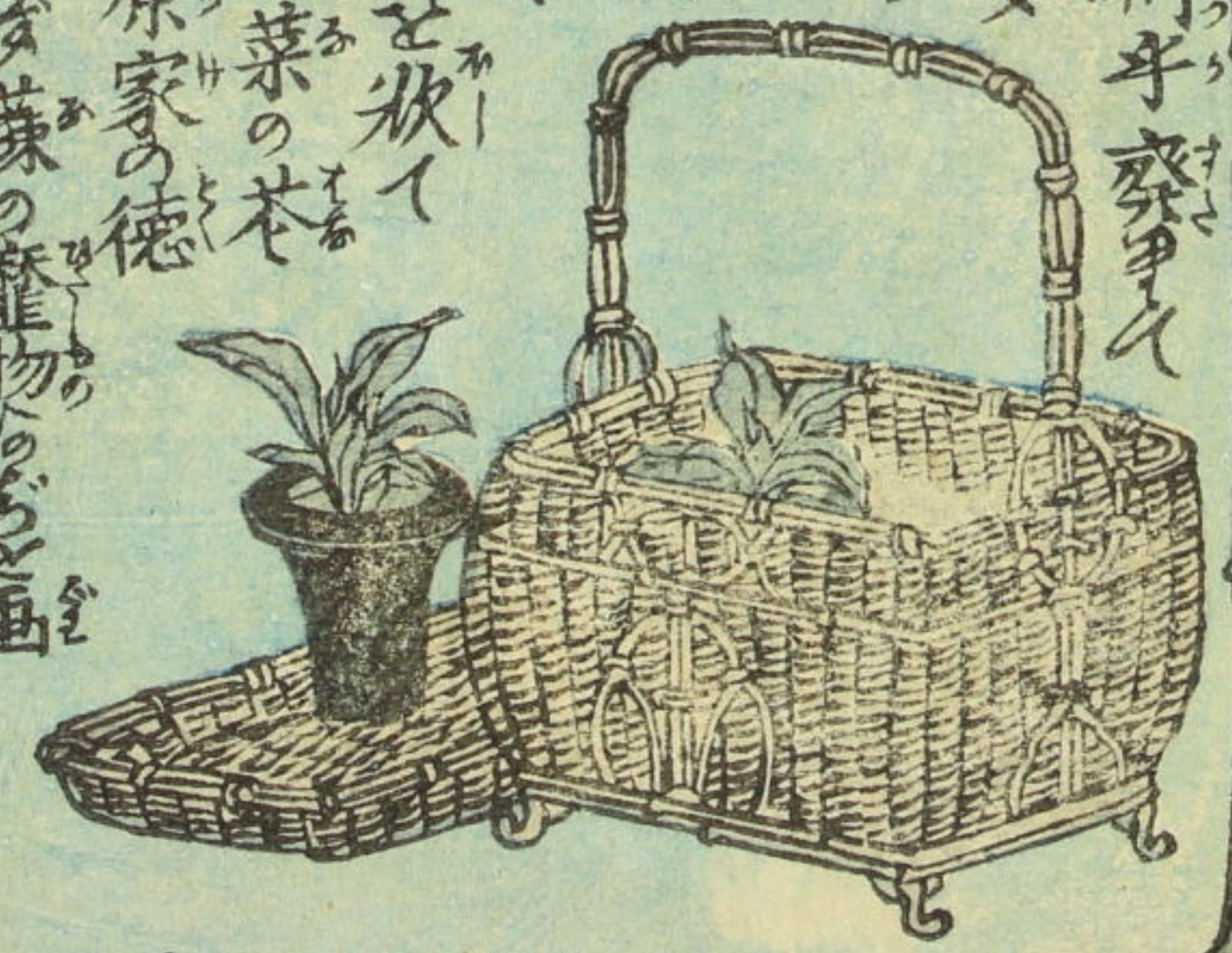


四十五年編上

いゝ見

安政... 頃萬年青... 盛高價... 何乎...  
愛顧人形... 翠綠常碧... 松竹... 丙午...  
慶應... 松蝕... 千歳... 萬年青... 此名...  
似... 誇... 今や羞... 提籃...  
往還... 黄金... 芽... 發時... 復至... 茲...  
小四五年中絶... 時代鏡... 繙... 絶...  
肖... 草... 梵蘭... 共... 飛... 如... 賣... 繙... 欣...  
再... 發... 繙... 用... 蝶... 嗜... 好... 菜... 本...  
社... 納... 祥... 加賀... 國... 菅... 菅原... 家... 徳...  
生... 一五... 國... 名物... 六... 老... 強... 着... 藤... 靡... 物... 画...  
家... 彩... 梓... 主... 若林... 堂... 繁... 茂... 丸... 筆... 艸... 雷... 木... 墨... 代...  
胡麻... 糲... 糊... 有... 然...  
明治十三年十月  
草... 序...

榊水亭種清記





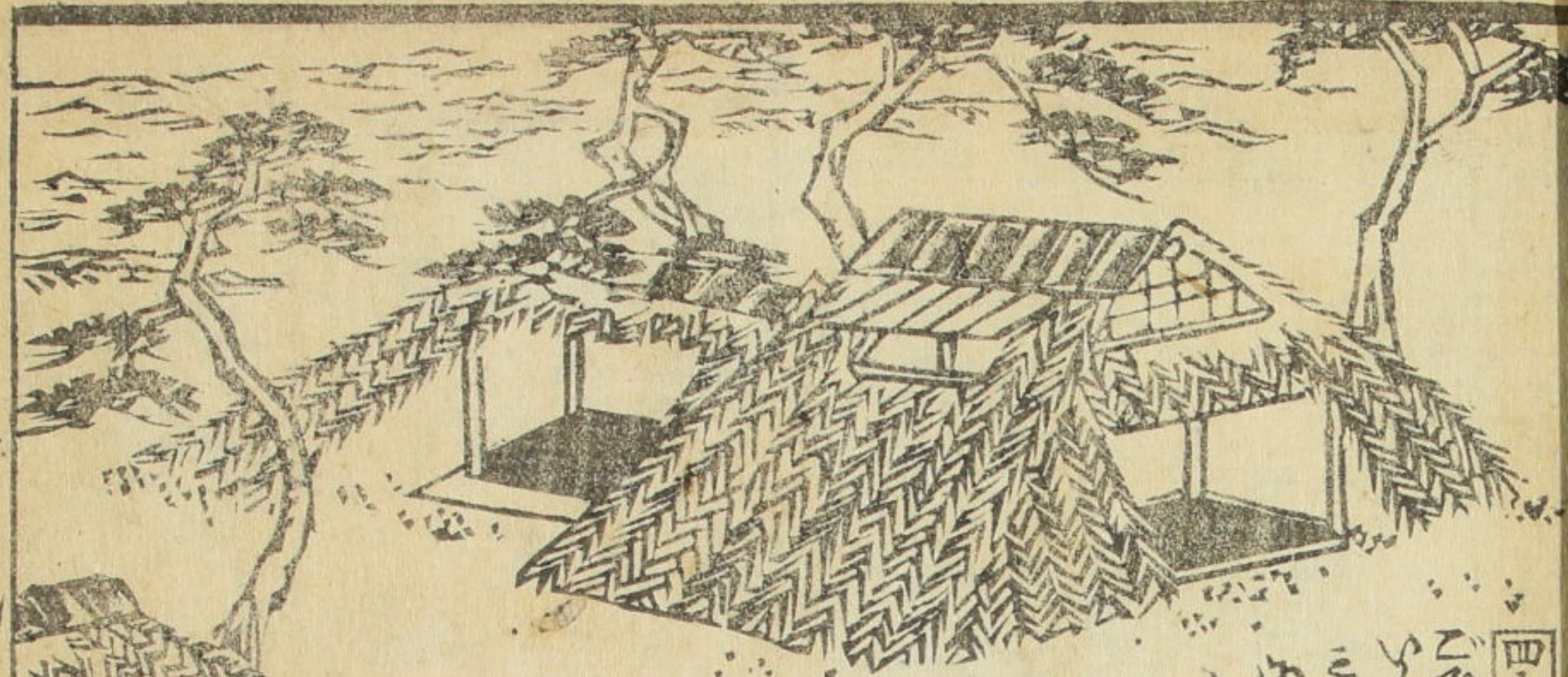
新築 兵衛 錢屋 館の五

實得總太  
船越  
宗吾

折根の方  
本  
遊女  
白



魚の池  
 魚の池  
 魚の池



四十五のよきとれり 河北が  
 こより八田のよきとれり  
 いちふのよきとれり  
 三つみのよきとれり  
 ちて魚換つねなるよきとれり  
 身富家高門のよきとれり  
 此のよきとれり  
 (一) 此のよきとれり  
 (二) 此のよきとれり  
 (三) 此のよきとれり  
 (四) 此のよきとれり  
 (五) 此のよきとれり  
 (六) 此のよきとれり  
 (七) 此のよきとれり  
 (八) 此のよきとれり  
 (九) 此のよきとれり  
 (十) 此のよきとれり

此の備はるべき  
 四十六編に至りて  
 語の端標の撰  
 揃成純色せん為るべき

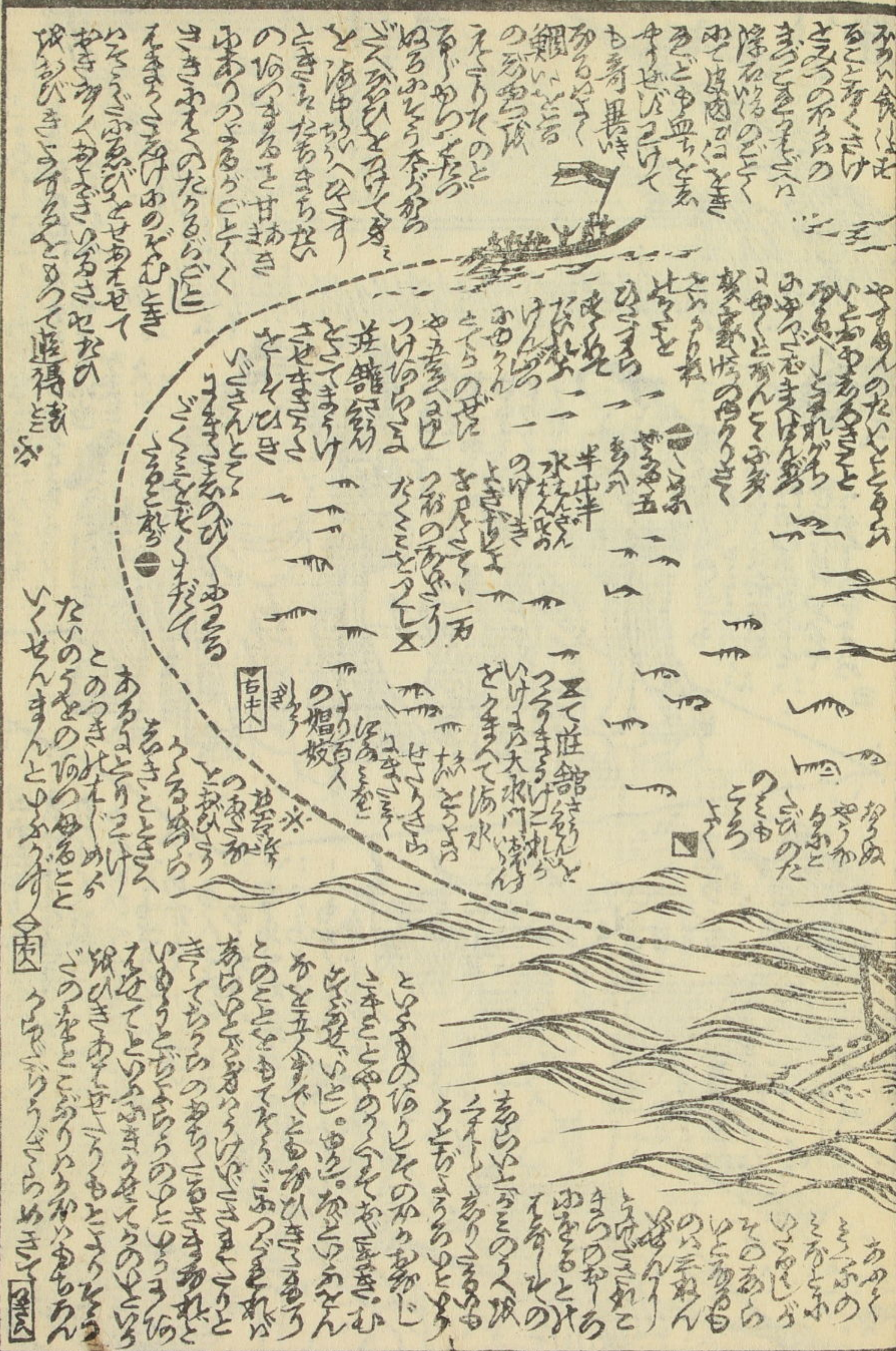


つぎ

あつたふは...  
まのつ...  
あつたふは...  
まのつ...

あつたふは...  
まのつ...  
あつたふは...  
まのつ...

あつたふは...  
まのつ...  
あつたふは...  
まのつ...



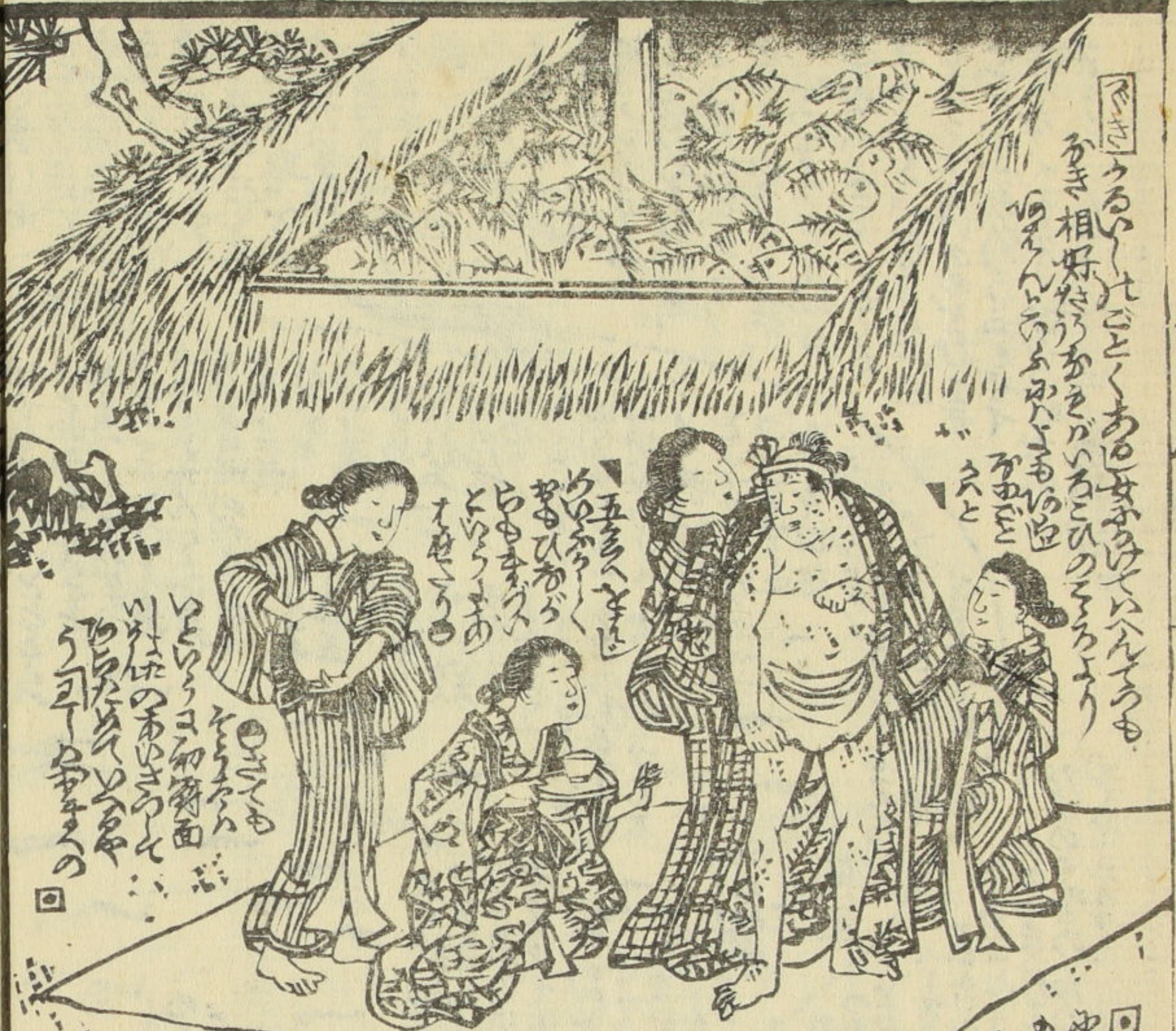
あつたふは...  
まのつ...  
あつたふは...  
まのつ...

あつたふは...  
まのつ...  
あつたふは...  
まのつ...

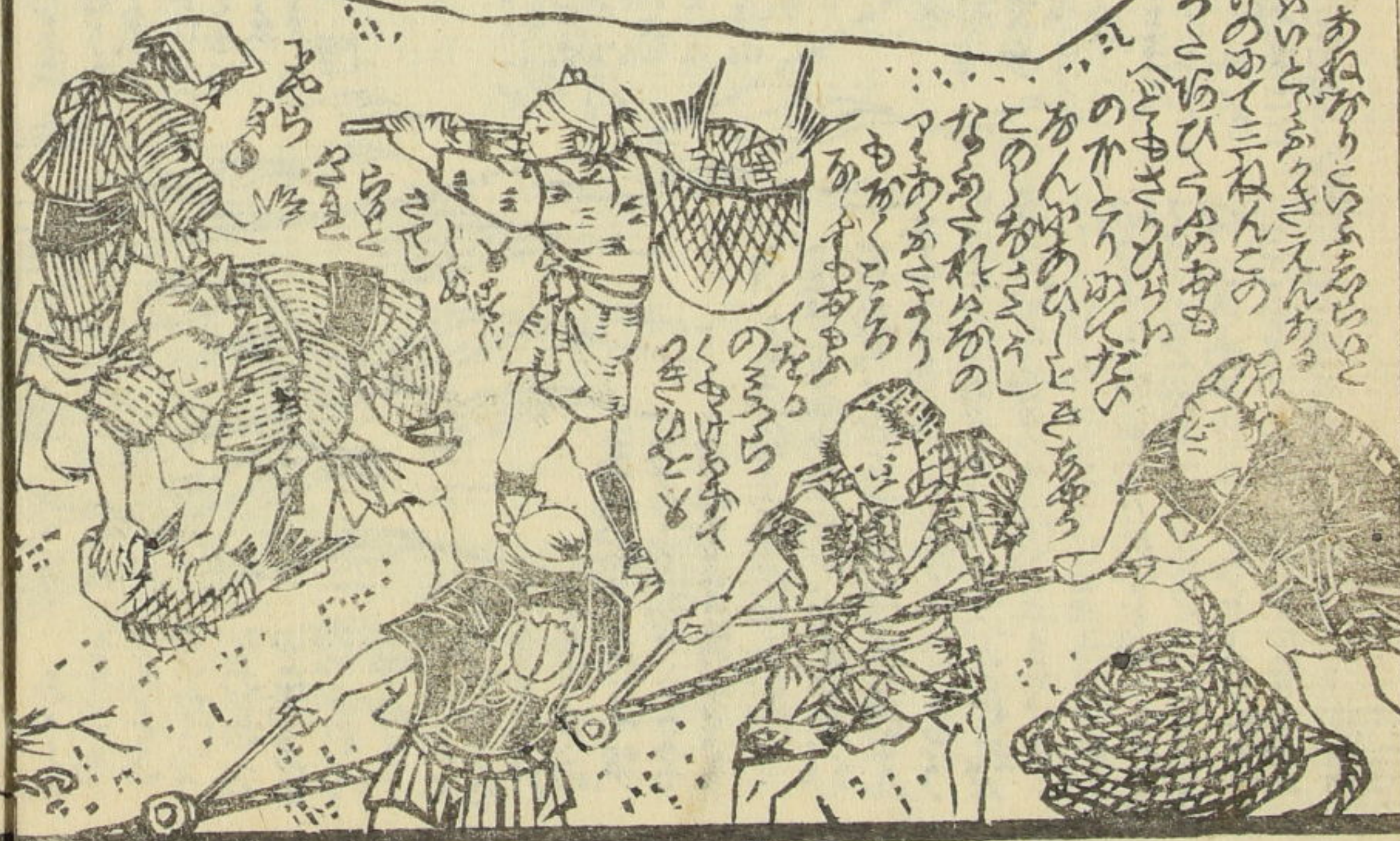
あつたふは...  
まのつ...  
あつたふは...  
まのつ...

あつたふは...  
まのつ...  
あつたふは...  
まのつ...

あつたふは...  
まのつ...



あまのこころはさかしくあはれむかひていへんとも  
 なまき相好たうあまのこころのまろしより  
 うまのこころはさかしくあはれむかひていへんとも  
 うまのこころはさかしくあはれむかひていへんとも



あねがりこころあはれむかひていへんとも  
 あねがりこころあはれむかひていへんとも  
 あねがりこころあはれむかひていへんとも  
 あねがりこころあはれむかひていへんとも



あまのこころはさかしくあはれむかひていへんとも  
 なまき相好たうあまのこころのまろしより  
 うまのこころはさかしくあはれむかひていへんとも  
 うまのこころはさかしくあはれむかひていへんとも







大江

正方の  
南座那



又  
 金  
 又  
 金  
 又  
 金

又  
 金  
 又  
 金

又  
 金  
 又  
 金

又  
 金  
 又  
 金

南座那

七







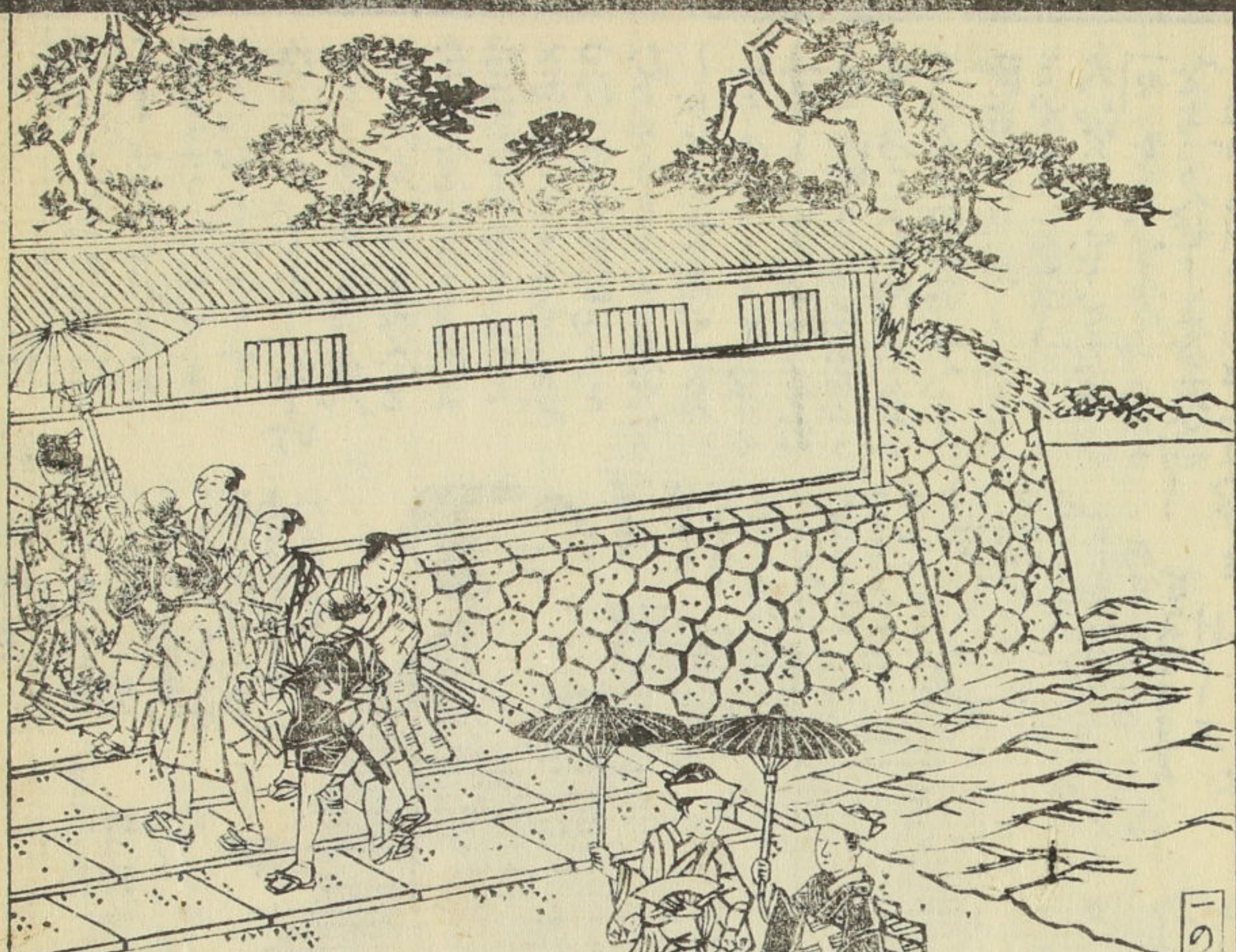
北雪  
美談  
時代  
加賀  
貝



和  
様

下編五十四





一の巻もつくことお  
 ことあけて  
 わり井原さ元  
 ちかひをと  
 「あやめつく  
 せとまき」  
 うせきう  
 ねおたみ  
 さんとか  
 けるとう  
 ざもかき  
 ねちろて  
 ねむらうわといちあひ  
 しかちのまきさるおひ  
 とことごひをのあそ  
 お又すけのサ下のつけ  
 たふまてうてよれむ  
 めがまてさんあつ  
 のおんらうあま  
 めちうらふしをあ  
 中しきゆりきのか  
 いとうのえおと  
 いひこがをとうつ  
 てあういとをなう

たるもふかきとゆう  
 ざんげんヨラヤよひ  
 白のうま  
 いつちつ  
 とまてや  
 大江ま  
 大はし  
 ちげん  
 とくけ  
 だじ  
 かぐらむうと  
 きつとて  
 中るとき小田の  
 大江へえ屋  
 勢どのま  
 とゆと  
 つま  
 とあ  
 余あ  
 きる  
 あぞ  
 だんか  
 つま

なくせ  
 美多ん  
 時代うん  
 四十五海下

うら







おどろへ百円のものが十田、  
あるよつてのちのち巨万  
のちのちをたてもあつ  
だのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ

ねのちのちをたてもあつ  
かのちのちをたてもあつ  
そなたのちのちをたてもあつ  
ねのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ

飛騨のちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ



又左へ  
たまたまのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ

右へ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ

あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ



飛騨のちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ

又右へ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ

あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ  
あつてのちのちをたてもあつ





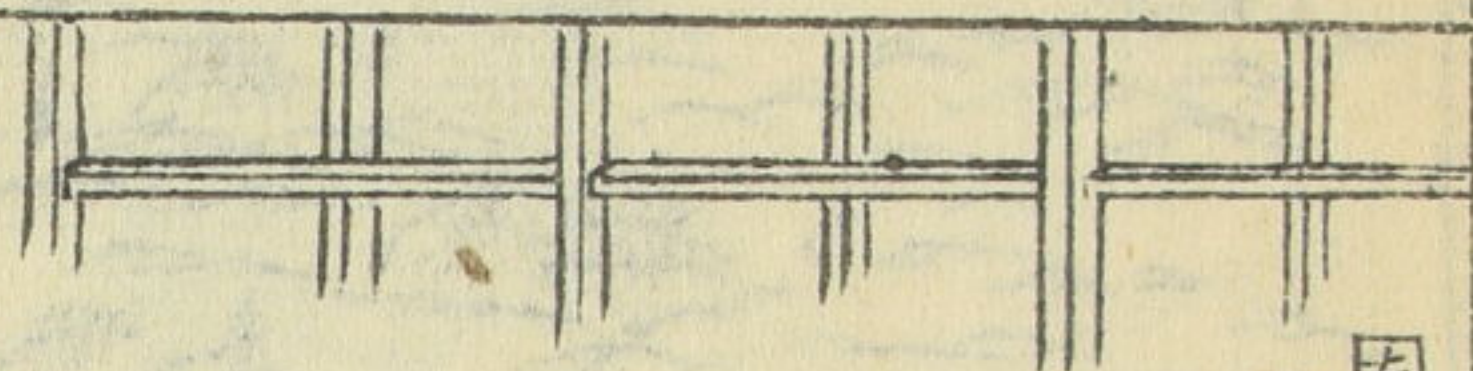






つぎ  
おきかこ  
てす

くだんをさきまおひきさるおかり  
むねごころにだん方のおりご  
めもあつちのきせももんた  
ちのふされめのだん方とあまが  
なるまひらんからうらふい  
のこころ  
せて  
わち



とあひつ  
てやひか  
おきその  
すめ  
しん



ハ  
あ  
こ  
あ  
さ  
も  
万  
網

あつちのふされめのだん方とあまが  
なるまひらんからうらふい  
のこころ  
せて  
わち  
あつちのふされめのだん方とあまが  
なるまひらんからうらふい  
のこころ  
せて  
わち  
あつちのふされめのだん方とあまが  
なるまひらんからうらふい  
のこころ  
せて  
わち





つきあけて 獵船  
 船中ヨロシトトヤ  
 たるこもあまえあうひ  
 かのせおもん外  
 中ソリヤイト  
 びてれおんら  
 二千とうとぎつらぬ  
 なるおねのうら  
 ぶれの上ね  
 ちのけ  
 二玉とあ  
 なる  
 ん  
 び  
 今  
 なる  
 つ  
 ん  
 れ  
 け  
 け  
 て

つぎあけて 獵船  
 船中ヨロシトトヤ  
 たるこもあまえあうひ  
 かのせおもん外  
 中ソリヤイト  
 びてれおんら  
 二千とうとぎつらぬ  
 なるおねのうら  
 ぶれの上ね  
 ちのけ  
 二玉とあ  
 なる  
 ん  
 び  
 今  
 なる  
 つ  
 ん  
 れ  
 け  
 け  
 て

このおねのうら  
 ぶれの上ね  
 ちのけ  
 二玉とあ  
 なる  
 ん  
 び  
 今  
 なる  
 つ  
 ん  
 れ  
 け  
 け  
 て

つぎあけて 獵船  
 船中ヨロシトトヤ  
 たるこもあまえあうひ  
 かのせおもん外  
 中ソリヤイト  
 びてれおんら  
 二千とうとぎつらぬ  
 なるおねのうら  
 ぶれの上ね  
 ちのけ  
 二玉とあ  
 なる  
 ん  
 び  
 今  
 なる  
 つ  
 ん  
 れ  
 け  
 け  
 て

このおねのうら  
 ぶれの上ね  
 ちのけ  
 二玉とあ  
 なる  
 ん  
 び  
 今  
 なる  
 つ  
 ん  
 れ  
 け  
 け  
 て

このおねのうら  
 ぶれの上ね  
 ちのけ  
 二玉とあ  
 なる  
 ん  
 び  
 今  
 なる  
 つ  
 ん  
 れ  
 け  
 け  
 て



時

竹

四

十

五



明治六年西曆新年刺目録

北雪  
美談

時代加賀實

早編  
早編

為永春水作  
歌川國貞画

雜談  
雨夜質庫

六編  
七編

為永春水作  
陽齋豐國画  
門入 國久画

池園  
よの語

初編  
二編

山々亭有人作  
歌川國貞画

地本草紙問屋若林堂

芝神明前  
若狹屋與市梓

時八四十五

二十一若狹屋与市梓

○前根糸遊る對面  
 懐の情話あると  
 糸遊終一  
 期以失まの物  
 語り並せ鯛  
 擒惣太印籠  
 と證扱か前根

柳水亭種清綴  
 國明圖畫



